

広島港宇品・出島地区基本構想検討会

第4回検討会 議事概要

日時:平成 30 年 7 月 31 日(火)15:00～

場所:TKP 広島平和大通りカンファレンスセンター 3階「ホール3A」

1. 資料説明

- ・ 主催者が「広島港宇品・出島地区基本構想検討会第4回検討会資料 第1章～第3章」を説明。

2. 「第1章～第3章」に対する質問

- ・ パブリックコメントが実施されたが、構想案について大きく制約となるものなどはあるのか。
→いただいた御意見については、これまでの内容に沿ったものであるため特に大きく変更するような点はない。(主催者)

3. 資料説明

- ・ 主催者が「広島港宇品・出島地区基本構想検討会第4回検討会資料 第4章～第5章」を説明。

2. 「第4章～第5章」に対する主な意見

- ・ コンテナ船全体の船型が大きくなるのは間違いないと思うが、大きくなった船が果たして水深 14m が必要となるのか、広島に誘致できるのか。
→東南アジア方面のニーズも強く、大型化しているというデータもある。この辺を精査しながら、港湾計画改訂の作業を進めていきたい。(主催者)
- ・ 広島港はコンテナヤードが二つに分かれていることが非常に大きな問題。コンテナに限って言えば、広島港としては非常にやりにくい。
- ・ 今後ますます人手が不足していく状況を考えると、最終的に一か所で行えるようにする。これがまず根本的な課題ではないか。
→長期構想において、出島地区へ集約という方向性を打ち出している。(主催者)
- ・ このたびの豪雨災害において、道路や JR、バスなどが機能不全になって最後に残ったのが船であった。そのときに得た様々な教訓を今後の港づくりにぜひ生かしてほしい。
- ・ 防災において耐震化も必要であるが、耐震化だけに特化するのではなく、豪雨災害に対する防災機能という観点で、海上輸送の有効性や漂流物回収などの対応も必要ではないか。
→今回の事案を踏まえ検討する。(主催者)

- ・ 今回の豪雨災害で水や支援物資が運ばれるが、バリアフリー面も必要であると実感した。港から船の玄関口まではバリアフリーのスロープで上げられるようにしてほしい。
→今後バリアフリーの取組を進めていく。(主催者)
- ・ 物流用地を確保してほしいこと、人流と物流の棲み分け、インフラ整備や交通アクセスについて今までの検討が反映されている。
- ・ コンテナターミナルを将来的に出島に一本化する具体的な道のりを示してほしい。人員が二手に分かれているものが集約できれば物流において大幅なコスト削減になる。
- ・ 経済界としてMICEのあり方について特別委員会を設置し、検討をしている。関係機関の方々とは情報共有をしていきたい。
- ・ 倉庫やコンテナ保管スペースなど場所の確保に苦労している現状を踏まえて、物をストレートに流すという基本をやっていくことが必要である。ベースとなるインフラ整備は非常にありがたい。
- ・ 物流・人流の迅速対応の必要性がどのくらい盛り込まれているのか。
→ 臨海部のふ頭用地や背後地との接続性強化や幹線道路へのアクセスを実現するため「交通ネットワークの強化」に取り組んでいく。(主催者)
- ・ 広島港のコンテナターミナルの施設は規格にしても規模にしても同程度の都市圏と比較すると見劣りしている。本来広島港が扱うべき貨物をしっかり扱うようにすることが将来の姿である。
- ・ 物流拠点としての機能を強化するためには、コンテナターミナルだけでなく背後のバンニング・デバンニング施設も必要となる。
- ・ 川から海に至る航路も含めた瀬戸内海の水上交通ネットワークの強化、沿岸部や島しょ部をめぐる周遊ルートを形成するなど、新たな観光や魅力の創出を図ることは、ぜひ進めていただきたい。
- ・ 出島地区の「臨海部物流拠点の形成を図る区域」では、どういったスキームを使って臨海物流を効率化する区域をつくっていくのか非常に重要な課題である
- ・ 検討会の性格上、物流の議論が多く人流のことがあまり取り上げられていないと感じていたが、この度の豪雨災害で改めて人が先にあると物があると感じた。
- ・ この度の豪雨災害で、海を使って人を運ぶことで乗り越えられたことが大きい。災害の対策だけでなく、これを今後どのように形づけていくかという方向で検討してほしい。